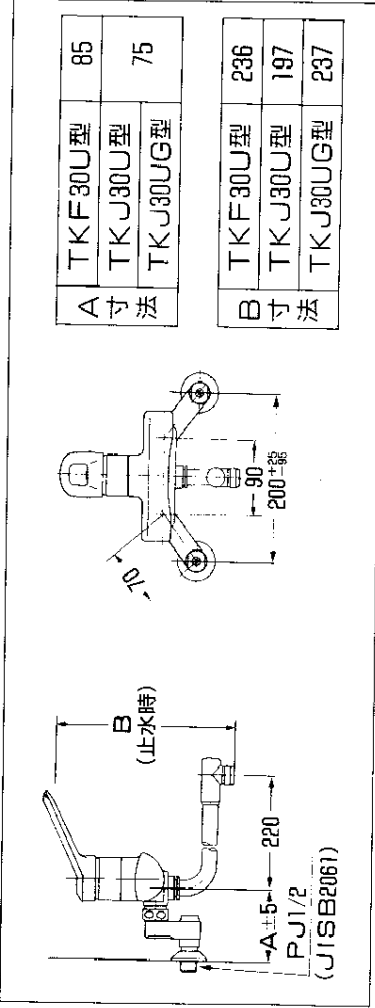


シングルレバー混合栓

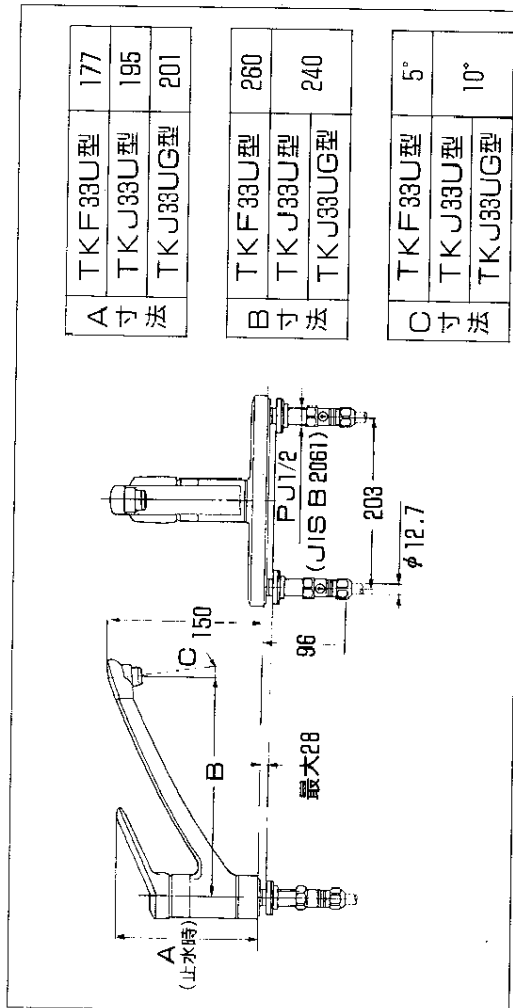
取付説明書

完成図

TKF30U型, TKJ30U型, TKJ30UG型



TKF33U型, TKJ33U型, TKJ33UG型



※品番によっては、図と現品の形状が一部異なることがあります。

1. 使用水圧

(1)瞬間型給湯機と組合わせる場合

給水圧力 { 最低必要水圧………(表参照)

{ 最高水圧………0.74MPa {7.5kgf/cm²} (設定条件)

●レバーハンドルは全開

●吐水温度：38°C

●給湯配管長さ：5m

●給湯機が着火する下限の

圧力とする

●水温の高い(25°C)夏期に着火させることを想定

●能力手動切替タイプの出湯温度は最高温度に

設定

●比例制御タイプの出湯温度60°C

※能力手動切替タイプで水温が高く着火しにくい場合は、能力を小さく切替えると着火しやすくなります。

器具入口部における最低必要水圧 (MPa (kgf/cm²))

給湯機タイプ	給湯機タイプと号数	最低必要水圧	
			能力手動切替タイプ
比例制御タイプ	TOTO	10号	0.08 {0.8}
	カスタム	16号	
	制御方式	20号	
	TOTO	16号	
	トリコン	20号	
	制御方式	24号	
	(トリコン	アクティ	
	・コンタクト	スーパークティ	
	・アクティ)	32号	
	TOTOハイトリコン	21号	
制御方式	24号		
TOTO	16号		
コマンド	24号		
TOTO	21号		
ハイコマンド	24号		

注) 表中のAは給湯機の最低動作水圧を示します。

(比例制御タイプにはこの数値が含まれています。)

(2)貯湯式温水器と組合わせる場合

給水・給湯圧力 { 最低必要圧力…0.05MPa {0.5kgf/cm²}
 { 最高圧力…0.74MPa {7.5kgf/cm²} }

(3)給水・給湯圧力はできるだけ同圧になるようにしてください。

2. 給湯に蒸気を使用しないでください。

3. 湯・水を逆配管しないでください。

なお給湯機からの給湯管は抵抗を少なくするため最短距離で配管し、配管には必ず保温材を巻いてください。

4. 水勢の調節及び器具の点検を容易にするために、必ず別途、止水栓をご用意ください。

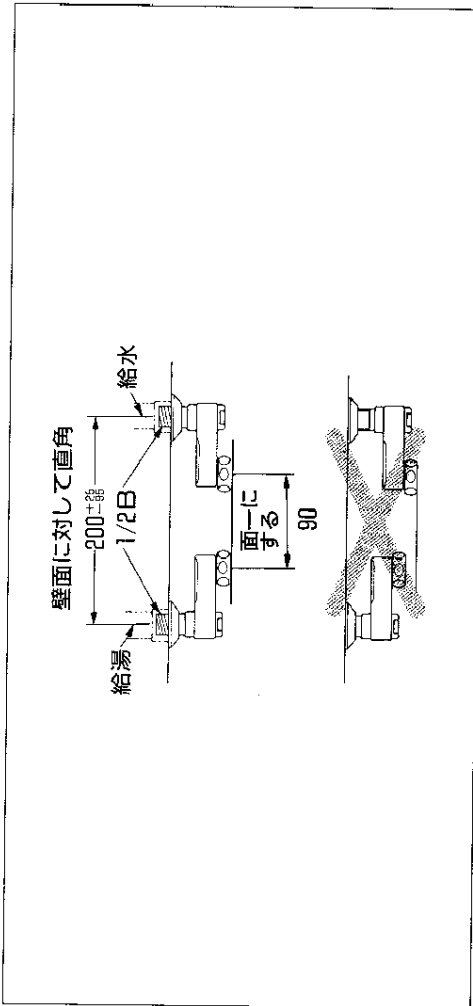
(TKF33U型, TKJ33U型, TKJ33UG型)

器具の取付け

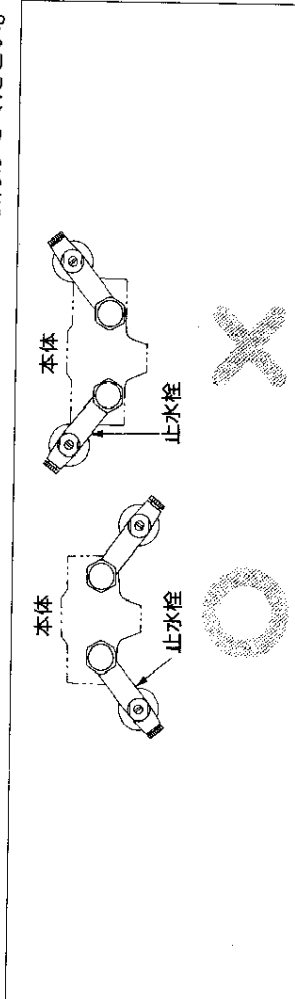
1. 給水管内の清掃

器具を取付ける前に必ず給水管内のごみ、砂などを完全に洗い流してください。

2. 止水栓の取付け (TKF30U型, TKJ30U型, TKJ30UG型の場合)



※寒冷地用TKF30U型, TKJ30U型, TKJ30UG型の場合は止水栓の取付位置が本体よりも上になると、水抜きができませんので必ず下になるように取付けてください。



※取付位置

● 混合栓は流しが一槽式の場合は槽の中央に取り付けてください。

● 2槽式の場合は右図のように2槽の中央より約80mm大槽側に寄せるとより使いやすくなります。

3. 混合栓本体の取付け

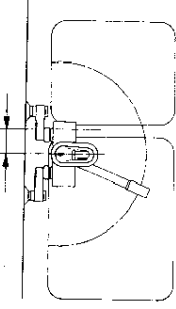
(1)TKF30U型, TKJ30U型, TKJ30UG型

混合栓本体を止水栓に押しつけ、袋ナットで取付けてください。

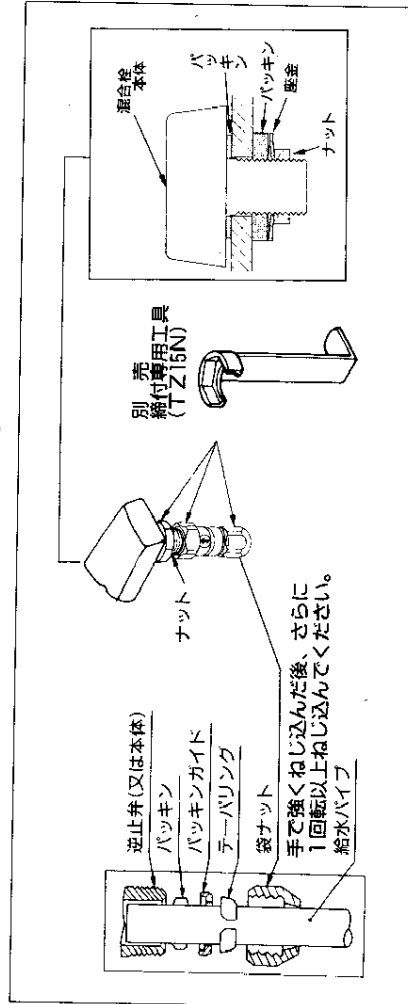
(2)TKF33U型, TKJ33U型, TKJ33UG型

混合栓を固定するときは、取付穴周囲の汚れをとり別売のナット締付専用工具 (TZ15N) を利用して確実に締めてください。

約80mm程度大槽側に寄せる



2槽式の場合



※差込み給水・給湯パイプに袋ナットを入れ、テーパーリング、パッキンガイド、パッキンの順番・向きをまちがえないように接続してください。

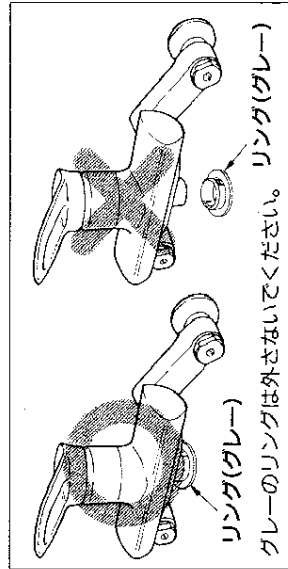
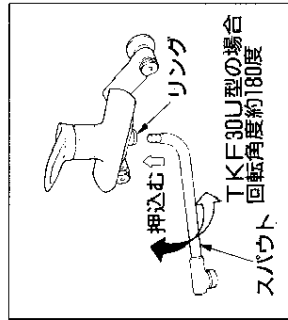
4. スパウトの取付け

(TKF30U型, TKJ30U型, TKJ30UG型)
 同梱されたスパウトを下図のように押込み取付けてください。
 この時、吐水口キャップを手前にして取付けてください。

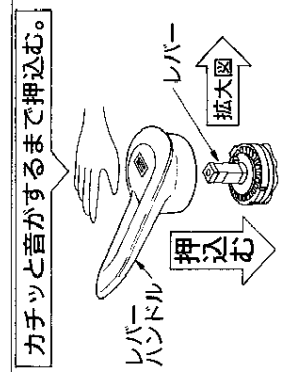
(TKF30U型の場合、後向きに取付けると、ストッパーがあるため、吐水口が手前に向きません)。

万一、間違っ取付けた場合は、スパウト取付部のグレーのリングを上押ししながら、スパウトを取り外してください。

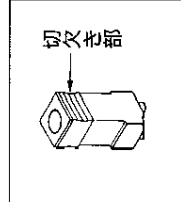
※スパウトは押込むだけで取付けが可能です。



レバーハンドルの取付要領



このレバーハンドルは、ワンタッチで取付けることができます。



レバーハンドルとレバーの切欠きとの方向性に注意してください。正面からみてレバーの切欠きは、両サイドにあります。
 万一方向を間違えて取付けた時は、レバーハンドルを一度引抜いて方向を合わせて再度押込んでください。

分解と点検

取付後、万一故障した際は、次の要領で分解および点検を行ってください。

ご注意

バルブ部カートリッジ内部は精密加工された特殊セラミックバルブを組立調整しておりますので、絶対に分解しないでください。

現象	点検項目
吐水量が少ない。	1、2
水が止まらない。	3、4、5、6
吐水温度不良。	1、2
ハンドルがガタつく。	7

4. 方向はあっているか

5. 十分締めてあるか

6. 3. 備、ごみかみはないか

7. カチッと音がするまで差込んであるか

止水栓
1. 止水栓は、全開されているか

逆止弁
(寒冷地用)

TKF30U型
TKJ30U型
TKJ30UG型

水抜コック

2. ごみつまりはないか

最後に、レバーハンドルが容易に抜けないことを点検してください。

使用上の注意

この商品は、ウォーターハンマー低減機構を採用しております。レバーハンドルを早く操作しようとする、抵抗感が発生し重く感じる場合がありますが故障ではありません。万一、レバーハンドルがロックして水が止まらなくなった場合は、一度全開にして再度ゆっくり閉めて下さい。

寒冷地用水抜き方法

寒冷地用の場合は器具内の水を抜くため、水抜コックを設けております。凍結のおそれのある時期に施工された場合は、水抜栓の操作と合わせて次の要領で水抜きをしておいてください。また、お客様にも水抜き方法をご指導ください。

〈水抜き手順〉

- (1)レバーハンドルを中央位置(湯側・水側の中間)で上げてください。
- (2)水抜コックを開いてください。
- (3)水抜き後は、必ず水抜コックを強く締めてください。

お手入れ

器具がいつまでも美しさを保つように、お客様にお手入れ方法をご指導ください。

- 1.ふだんは柔らかな布でふき、ときどきミネシン油やカーワックスなどをしみてこませた布でふいてください。ただし、樹脂部に付着すると光沢を失うので付着しないよう十分注意してください。
- 2.汚れがひどいときには、適量にうすめた食器用中性洗剤を含ませた布で、ふきとった後、水洗いしてください。
- 3.クレンザーやみがき粉など粗い粒子を含んだ洗剤やナイロンたわしなどは使用しないでください。
- 4.酸性洗剤はめっきを侵しますので使用しないでください。もしタイルを酸性洗剤で洗った場合は、すぐにタイル及び器具を十分水洗いしてください。

レバーハンドル

7. カチッと音がするまで差込んであるか

ストップバー 6. 外れていないか

カートリッジ押え

5. 十分締付けたあるか (手締め)

バルブ部カートリッジ

パッキン 3. 傷、ごみかみはないか

リング

パネ

締付専用工具 (TZ16N)

(寒冷地用)

TKF33U型	水抜コック
TKJ33UG型	水抜コック

1. 止水栓は全開されているか

2. ごみつまりはないか

4. 方向はあっているか

パッキン

リング

パネ

TKJ33UG型

TKF33U型

吐水口キャップ

点検時の注意

※品番によっては、図と現品の形状が異なることがあります。

カートリッジ押えは、手締めにて締め付け、工具は使用しないでください。(TKF30U型、TKJ80U型、TKJ80UG型を除く) 再セットされる際に、ストップバーを組込む時は、カートリッジ側凸部とストップバー側凹部を合わせて押込んでください。その際カートリッジ押えの内側の歯と、ストップバーの外側の歯が合わない時は、カートリッジ押えを締め込む方向にて歯を合わせる様に調整してください。

